国際・探究通信 第63号
Trinity
2024/03/21(thu)　国際・探究推進部

三木市国際交流協会 出前講座Ⅶ

３月１日（金）、通算で８回目となる「出前講座」を行いました。これは、コロナ禍での、直接的な海外交流の代替として、三木市国際交流協会さまのご協力により、2021年度から行ってきたものです。これまでに、シリア・インド・ロシア・インドネシア・ブラジル・中国・ラオス・韓国・フィリピン・パキスタン・ペルー・タイ・オーストラリアにルーツを持つ方々と交流を行ってきましたが、今回はブラジル出身のスエリ・フエレイラさん、ネパール出身のアチャリヤ・ウペンドラさんを講師にお迎えし、昨年度好評だった料理を通じての交流を行いました。

参加者は、１・２年生の希望者と家庭科部の生徒たち。ブラジルのお菓子・パステウと、ネパールのチキンほうれん草カレーをごちそうになりました。参加した生徒は、「美味しかった！」「レシピをもらったので家でも作ってみたい」などと話していました。「海外に行かなくとも、地元でこのような国際交流をすることが可能なので、国際交流協会が行うボランティアにも積極的に参加してください。」と協会の河越恭子さんも話しておられました。

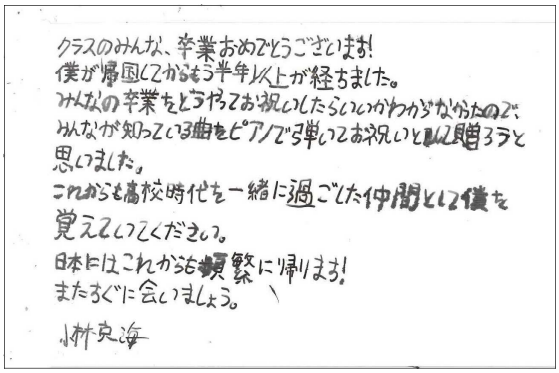
調理・片付けを手伝ってくれた家庭科部の皆さんも、本当にありがとうございました。

76回生、ご卒業おめでとう！

先月29日（木）、第76回生の卒業証書授与式が行われ、207名の卒業生が巣立って行きました。

校長先生の式辞の中でも触れられていた、ドイツからの留学生、小林克海セドリックくん。2022年の２学期から23年の８月まで、国際総合科のメンバーとして過ごしてくれました。

その克海くんから、76回生の卒業に際し、クラスメイトとお世話になった先生方に、カード（右）と、彼のピアノ演奏を録音したCDとが送られてきました。「クラスのみんな、卒業おめでとうございます！僕が帰国してから半年以上が経ちました。みんなの卒業をどうやってお祝いしたらいいかわからなかったので、みんなが知っている曲をピアノで弾いてお祝いとして贈ろうと思いました。」


クラスのみんな、卒業おめでとうございます!
僕が帰国してからもう半年以上が経ちました。
みんなの卒業をどうやってお祝いしたらいいかわからなかったので、
みんなが知っている曲をピアノで弾いてお祝いとして贈ろうと
思いました。
これからも高校時代を一緒に過ごした仲間として僕を
覚えていてください。
日本にはこれからも頻繁に帰ります!
またすぐに会いましょう。
小林克海

皆さんも、海外での交流や、あるいは日本国内でも、「一期一会」の「出会い」があることと思いますが、この克海くんの粋（いき）な計らい、大いに学ばされますよね。（克海くんのピアノ演奏はclassiにアップします。）

ちなみに、克海くんの弟・逸聖（いつせい）くんが来年度２学期から（２年１組に）、宗一郎（そういちろう）くんが再来年度２学期から（１年１組に）、克海くんと同様、１年間、本校に留学する予定です。

神戸松蔭女子学院大学、特別講義

４日（月）、国際総合科１・２年生では、神戸松蔭女子学院大学から松田謙次郎先生をお迎えし、特別講義をしていただきました。ご自身の経験を交えながら海外留学の意義についてお話しいただき、生徒たちは興味深く聞き入っていました。以下、生徒の感想（抜粋）です。

モンゴルに行った時、日本とは文化や料理が全然違い、最初は「大丈夫か？」と心配していましたが、最終的にはとても楽しかったです。先生が仰った通り、帰国した時に自分が変わった気がしました。言語の壁はあるかもしれないけど、世界に視野を広げてみたいので留学に行きたいと思いました／これまでは英語が上手く話せないから留学に行ってもあまり効果はないだろうと思っていたけど、留学に行くメリットなどを考えると英語を学ぶモチベーションにも繋がってきたし、今回の授業を受けて留学に興味を持つことが出来ました／私はもう少しで留学に行くので、今日のお話がとてもためになりました。先生が仰っていたような経験になるのか、または全く違う経験、感じ方になるのか、楽しみです／先生のお蔭で勇気が出ました。将来に向けてがんばります。ありがとうございました！

キャミアック高校、短期留学！

１・２年生の希望者４名が、16日から31日まで、米国シアトルのキャミアック高校に短期留学します。今回は、航空機や保険の手配も各自で行い、現地ではホームステイ、そして、キャミアック高校の授業にも参加する予定です。詳細は次号で報告します。お楽しみに♪

実用英語技能検定

今年度末時点での、英検の合格状況です（過年度の分は含まず。）。校外受験など、含まれていないものもあるかもしれませんが、ご容赦ください。((　) 内数字は国際総合科。)

	３年生	２年生	１年生	合計
２級合格者数	35(8)	13(3)	2(1)	50(12)
準２級合格者数	56(9)	43(13)	13(4)	112(26)

英検
後援：文部科学省

～～～

「不適切にもほどがある」というドラマが注目されています。「昭和」のオジサン教師が「令和」にタイムスリップしたという設定で、両時代の問題点（良い面も）がクローズアップされているそうです。

「ジェネレーション・ギャップ」という言葉があります。「世代による価値観の相違」という意味ですが、現在の「新しい価値観が全てであり絶対善」、「古い価値観は顧みる必要のない、直ちに排斥すべき絶対悪」と見なされる風潮（価値観）の下では最早死語でしょうが、「不適切にも～」はそこに再び光を当てて世代による価値観の相違を提示し、視聴者に様々な「気付き」を与えて注目されているようです。

「平成」世代の皆さんには驚きでしょうが、かつて今とは逆で、「先人が築いた伝統的な価値観が絶対」で「俄かに登場した価値観は胡散臭い、忌避すべきもの」でした。ではその時代は「黒歴史」だったのかというと、現在から見てある面ではそうだったかもしれませんが、全体で見ると「それでうまくいっていた」のです。

これまでにも、「中道」「中庸」について書いてきましたが、同時代の異なる立場・価値観だけでなく、異世代間の立場・価値観についても、「100か0か」ではなく、双方を理解しつつ「無理なくほど良い着地点」を模索していきたいものです。これもある意味「Global」（広い視野で）です。

〔国際・探究推進部長　田尻　淳〕